

**岡田寒泉** 漢学者。寛政異学の禁を推進した"寛政の三博士"の一人。

おかだかんせん

・ ・ ・ ・ ・ 1740 = 神田小川町に生まれる。父岡田善富は西丸書院番を務めて千二百石の旗本。寒泉はその次男。

**徳川吉宗隠居**1745 = 5歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1749 = **9歳** :

**徳川吉宗没**・ 1751 = 11歳 :

**宝暦事件**・ ・ 1758 = **18歳** :

**大岡忠光没**・ 1760 = 20歳 :

**意次側用人**・ 1767 = **27歳** : 兵学を村士淡齋に学び、

**田沼意次老中**1772 = 32歳 : 師村士淡齋が死去。その後は、子の玉水に闇齋の学を学ぶ一方、

**黄表紙始**・ ・ 1775 = 35歳 : 村士玉水も死去。

**雨月物語刊**・ 1776 = **36歳** : 弓や剣についても修業して、文武両道の士になっただけでなく、

医学にも通じていたので、それらを教え、実際に診断や治療にも当たっていて、

**蝦夷初調査**・ 1785 = **45歳** : 父が死去。

**田沼意次失脚**1786 = 46歳 : この年からの大飢饉に対応し、

**寛政改革始**・ 1787 = 47歳 : 領民に救急療法を施したことなどが、田安家で教えていた黒沢維岡に知られていたらしく、この年、田安家御曹司松平定信が老中になって、

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = 48歳 : 柴野栗山を儒官に召し出したのに続いて、

**初の横綱**・ ・ 1789 = 49歳 : 黒沢の推薦で、\***老中松平定信により幕府に召し出され、儒官に採用され、將軍家斉にも調する。以後、柴野栗山と共に、林大学頭錦奉を助けて、昌平黌を舞台として、**

**異学の禁**・ ・ 1790 = 50歳 : **寛政異学の禁に伴う新しい教育を行なうようになる。また自邸に家塾寒泉精舎を設けて、公務の余暇に子弟を集め講義を始める。**

**松平定信引退**1793 = 53歳 : **松平定信の老中辞職に伴い、**

**ワヅカ** 正月・ 1794 = **54歳** : \***常陸の国の代官職に転じ、7郡182村5万余石の土地を管理することになる。**

**この職でも、風俗の肅清や荒地の開墾、備荒貯蓄や人口増加の奨励等で、素晴らしい業績を挙げ、有用の人として官にも土地の人々にも、深く感銘させることになる。殊に村民はその徳に悦服して、父の如く慕い、その祠や碑が至る所に建てられた。**

**7ヵ船来航始**1803 = **63歳** :

**代官職にあること14年、その間にも職務の暇をみては聖堂で講義、**

**間宮海峡発見**1808 = 68歳 : \***辞職を願い出るも、村民の留任運動があつて許されず、**

**高田屋拿捕**・ 1812 = **72歳** : \***ようやく致仕。**

隠居後は横山町の屋敷に住み、なお、**子弟への講義を続けて、**

**伊能測量終**・ 1816 = 76歳 : **没した。**

「幼学指要」「寒泉精舎遺稿」「祭礼略義」「秋虫考」「松虫考」「寒泉文集」など。

重田定一「岡田寒泉伝」で追補、